

右脳でも受け止められる文字は漢字だけ

ところで、左脳が別名“言語脳”と呼ばれることからわかるように、通常、人の話を聞いたり、話したり、読んだり、書いたり、といった言葉に関わることは、すべて左脳で処理されます。ですから、漢字であろうと、ひらがなであろうと、文字を読むときに働くのは左脳だけ、と考えられていました。

ところが最近の研究によれば、ひらがなを見たときには、左脳だけしか働かないのに対して、漢字の場合だけは、右脳と左脳の両方の脳を使って処理されていることがわかってきたのです。

これには、すでにお話ししましたように、漢字は複雑な字形をしているので、逆に図形的なイメージで捉えやすいことや、表音文字であるひらがなと異なり一字一字が明確な意味をもつ漢字は、見た瞬間に言葉の内容をイメージとして思い浮かべることができる、といったことが深く関わっていると考えられます。

いずれにせよ、右脳優位の幼児にとって、左脳にしか入ってこないひらがなと、右脳でも受け止めることのできる漢字とでは、どちらが覚えやすいか？ 答えは言うまでもありません。そして、これはまた、「漢字教育にいちばんふさわしい時期は幼児期である」ということの裏付けとも言うことができるでしょう。